P.M ニュース No4

市外上落合460
日本プロレタリア
音楽家同盟発行

★農村へ

P.M最初の農村への出動が七月初旬勇敢に行はれた、プロキノ、P.Pとの共同で府下青梅所への出動だ、合唱隊七人は坤、久け行って故相川氏の追悼会へ参[illegible]の歌を持ちよった、最初の事で甚だ勝手がちがい、元気なピオニールの歌をみんなが知ってゐるのにおどろかされる、大人たちの左翼農会傳が始まる、俺たちは最初に合唱の同志はほれぬ之をやる練習不足を判りと見せつけられる、歌詞を見ずに歌い得ず事は断然やめろ、なるべく新しい歌をうたふ様にしたい、農民諸君は非常に熱心に聞いて下さった、赤旗、三・一五、青年同盟の歌等の数々、一諸に手をうって元気に歌って下さった、始めての事ずくめ俺たちは教へられる所が多々

れ一た、これから益々活動するぞ、

★ナップ機関紙が創刊発行された、

以前から必要を認められてゐたナップ機関紙「ナップ」が遂に九月から発刊された、あらゆるプロレタリア芸術運動、領域に於いて指導的役割を果すべくはなばなしく九月から評論、世界及日本の芸術運動ニュースをのせてゐる、創刊号にはP.Mの原稿が間に合はずかつ十月号には河田氏の「現在日本のプロレタリア音楽」に就いて書かれた後、劇一がのる筈だ、ナップ員たる者は協力して機関紙ナップを支持する義務があるぞ、読め、機関紙ナップ!!

★プロレタリア歌曲集発刊さる、

P.Mの仕事の一つとして、プロレタリア歌曲集が本同盟に於いて編輯され戦旗社から発行された、第一集、全部で十八曲目みんな俺たちの歌だ、新しい歌を沢山のせられなかったのは残念だ、これから出来る歌は第二集、第三集とどしく発表する・編輯が急だったので誤りがあるから訂正する

四ノ一、　一九三〇、九、二一、日本プロレタリア音楽家同盟発行、

	誤	正
P三、下より五行	海辺へ行ての[illegible]	今まで高い[illegible]
十四、二節	[illegible]	[illegible]
廿二、二節	[illegible]	[illegible]
四〇、三〃	一[illegible]	一[illegible]ごと
ナ三、一	赤い旗	赤い旗よ
ク六、五	うねれ波打て赤い旗 嵐に赤く輝く旗を吾が前に	ゆれて波打て赤い旗よ 真紅の旗を前に戦ひす、まん
二四、二	生きる日君は 時は来りぬいざ復讐へ	生けるか日君は 時は来ぬいざ復讐に
二八、一	血汐の海へゆき 金と地位とにまどひたる	血汐の海をゆき、 金と地位とに迷ひたる
〃四	捧げて進むをちかふ	かかげて進むを誓ふ

★プロ研夏季大学へ出動

プロ科学主催の語学講習へ合唱班から出動して各語で[illegible]歌を数へた、熱心なる講習生諸君は二三回で[illegible]エス語、ドイツ語、[illegible]語でインタナショナル、[illegible]等を元気にうたって[illegible]

★SATのエス語講習へ出動

新宿と柳島で開かれたエス語講習へも出動して[illegible]

★PP夏季講習茶話会へ

PP夏季講習の茶話会へ招かれて新しい同志のために七月三十一日夜プロ美研へ合唱班を挙げて出動した、最初からP.Mに特に親しいPPの元気な同志と講習生諸君と一緒に愉快な一夜を持った高らかに次々と斗争歌を合唱し来るべき斗争を誓ってますく緊密に腕を結んだ

★ハモニカバンド結成さる

かねてからの懸案だったハモニカバンドがいよく実現した、全員約十名だ、今盛んに練習を続けてゐる、移動音楽隊の一つとして合唱隊と共に活躍するであろう

★活動部[illegible]

最近不況深刻を[illegible]れた活動部は[illegible]れる方針を立て、ものすごい勢で仕事についた、サークル、プロキノ、[illegible]等との連絡

もとゝのひ積極的活動に入ったぞ、一層活溌にさせるためにはP、M全体で絶えず働き掛けてみて活動を助けて行け、P、Mの活動はP、M全員の仕事だ、

★作曲班々会報告、

作曲班では今まで作曲活動の不振を問はれてゐたが之は作曲する詩が無かったのは一つの大きな原因で、今度作家同盟詩研究会との協力により詩人の作曲班々会への積極的参加と言ふ事が決定され八月二十六日夜その第一回の班会を開き作曲活動が一路を開いた、作曲家側と詩人側からとの斗争歌に就いて充分な討議がされ我々の音楽は当然労働者農民の生活環境に基礎をおき労働者農民の感情に適應した形式で労働者農民大衆に組織的に歌はれる音楽が作詩され、作曲されるべきであると言ふ意見にまとまり、音楽に対して詩人と作曲家との間にあった大きなギヤップも今後かうした共同班会の度毎にギヤップも無くなるであらう。

第二回は九月十六日に持たれたが詩人側から く作曲方針等が討議された、移動合唱隊用として最も大衆的な現在替歌などに現れてゐる点に重点を置いて最もプロレタリア的な感覚を以って作られる事となった、

★第六回総会報告、

八月二十日第六回総会を開く、

主要議題次の如し、

一、青新出動批判、
一、ブラスバンドの件、
　今の所P、Mは経済的に持てないから時期を待つて持つ、

其の他、

★第七回総会報告、

九月十日第七回総会を開く、

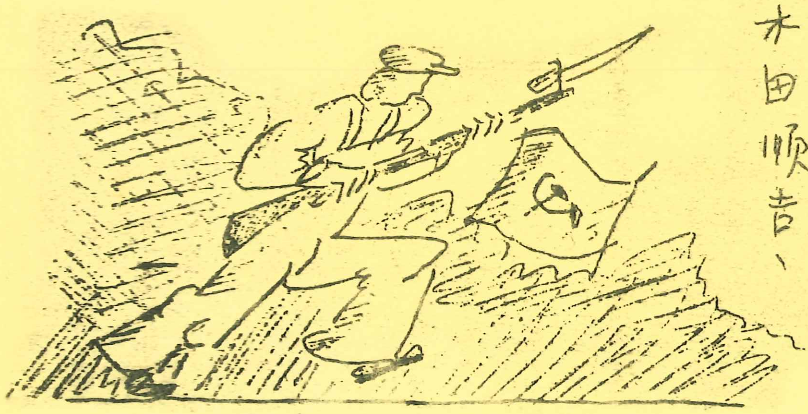
出席者約三十名、

主要議題は次の通りだ、

一、委員長辞任に関する件、可決、
一、長記長辞任に関する件、可決、
一、歌曲集批判、
一、同盟員推選の件、　可決、
　新同盟員　中野秀三、
　仝　林蓮子、

その他、次いで新委員長、書記長その他の選挙にうつり次の通りに変更された、

委員長、露木次男、
書記長、山本正夫、
合唱班委員、関鑑子、
仝、古各勇、
書記、河野さくら、
仝、木田順吉、



四ノ二　一九三〇、九、二一　日本プロレタリア音楽家同盟発行